

『この音はどこまで』

岡本拓也

◆登場人物

蒼井まどか（あおいまどか）	27歳。女性。教員。吹奏楽部顧問。
新見結衣（にのみゆい）	26歳。女性。教員。ソフトテニス部顧問。
藤崎沙織（ふじさきさおり）	18歳。女性。吹奏楽部部长。
石川亜美（いしかわあみ）	18歳。女性。吹奏楽部部員。須田の恋人。
須田敦貴（すだあつき）	18歳。男性。吹奏楽部部員。石川の恋人。

■第一場

高校の音楽準備室。季節は春。

上手側には棚がいくつか置かれている。楽器が入ったケースや、CD、本、などが棚の中に置かれている。一つの棚の隅に古いラジカセが置かれている。他には掃除道具の入ったロッカー。床には備品の入った段ボールが置かれている。

舞台の中央には学校用の机と椅子が数セット置かれている。

下手側には教員用のデスクと椅子がある。

上手奥と下手奥にそれぞれドアがある。

藤崎、上手側でコンクールの課題曲のデモ演奏が録音されたCDを探している。

上手のドアが開く、須田、蒼井、入ってくる。

須田、教員用の譜面台を運んでいる。

蒼井、スコアを持っている。

蒼井・須田 お疲れ様

藤崎 お疲れ様です

蒼井 ありがとうございます探してくれて、私も手伝うよ

藤崎 大丈夫ですよ一人で

蒼井 そう？

須田、譜面台を置く。

須田 先生さっきの合奏どうでした？

蒼井 良くなってるんじゃないかな

須田 具体的にどこが変わってきてるのかあったら聞きたいと思って

蒼井 具体的、そうだね、うーん、聴いてた時のパワーみたいな、力技……っていうと違うな、繊細さが大事なんだよね課題曲はだから、でも聴いてた時の迫力が良くなってるかな！

須田 あ、なるほど、迫力

蒼井 うん、皆練習頑張ってるし

須田 でも俺42小節のそこちょっとミスっちゃって

蒼井 え、そうだった？

蒼井、スコアを開く。

須田 俺、大丈夫ですかね

蒼井 大丈夫だよ

須田 コンクールメンバー初めてなんで、足引っ張ってないかなって

蒼井 須田君一番早く来て練習してるんだから大丈夫、それにミスしたところはわかってるわけだからそこは重点的に復習しよう

藤崎 先生

蒼井 何？

藤崎 部員に甘くするのやめてくれませんか

蒼井 甘い？

藤崎 もっと厳しく指導してくれないと困ります

蒼井 え、甘いかな

藤崎 はい。今日の演奏だって樋口先生だったらもっと厳しい意見を言ったと思います

蒼井 そうだよね、ごめん、ちょっとまだ技術的なことが言えないから

藤崎 だとしても、甘くするのは違うじゃないですか

蒼井 甘くしてるつもりもないんだけど

藤崎 大体樋口先生だったら

須田 そればっか言ってもしょうがないだろ、経験も違うんだし

蒼井 ごめんね力不足で

藤崎 謝ってほしいわけじゃなくて

須田 樋口先生、いつ戻るとかって聞いてないんですか

蒼井 ああ、うん、体調良くなったら戻られると思うんだけど

上手のドアが開き、石川が現れる。

石川 蒼井先生、一年が呼んでます

蒼井 はいはい

蒼井、上手のドアから出ていく。

藤崎、再び課題曲のCDを探し始める、石川も手伝う。

石川 CDまだみつかってない？

藤崎 うん

石川 誰かしまっちゃったかな

須田 課題曲だし、しまわない気がするけどな

須田も上手側の棚の方に近づいて手伝おうとする。

石川 どこだろうね

藤崎 須田、こっちはいいから音楽室の方探してきてよ

須田 え？いやなかったじゃんさつき

藤崎 じゃあ部室

須田 見たって

藤崎 もう一回見てくればいいじゃん

須田 いやいや

藤崎 いいから

須田 まあ、わかったけど

須田、下手のドアから出ていく。

藤崎 ねえ亜美聞いて、やばいんだけど！

石川 どうしたの？

藤崎 さっきの合奏「迫力あって良くなってる」だって

石川 蒼井先生？

藤崎 そう、最悪、まじやだ、的外れ、大体さ声小さいんだけど、あれじゃ皆がまともじゃないし、樋口先生だったらもっとさあ

石川 今日のは樋口先生だったらもう切れて帰ってるね

藤崎 指揮棒ぶんなげてるよ

石川 （樋口の真似をして）「ストップー！オーボエ立て！なんだ今の、もういい帰る！」

藤崎 でた！立たせて帰る！

石川 先生の奥義ね

藤崎 でもそんなに厳しくしないと、今日のはひどい、低音ピッチずれてるし、オーボエのソロもいつもより出てないし、で、問題の須田、指回ってなかったよね？

石川 そうかも

藤崎 須田が一番やばい

石川 うん

藤崎 そんなの演奏してるうちらでもわかるんだけど、聴いててわかんないなんてことある？

石川 まあ蒼井先生素人だから

藤崎 あとさ、あの指揮はどうしたらいいの

石川 確かに打点わかりづらいし、リズム全然あってなかったね

藤崎 これで全国なんて行けるわけないよ

石川 そうだよな

藤崎 それでなんだけど、一個解決策考えてて。新見先生いるじゃん

石川 うん

藤崎 昔吹部だったらしいんだけど

石川 え、そうなの、今ソフテニの顧問だよな

藤崎 そう、でも高校の時は吹部だったって。ピアノ習ってた時の先生にこの前会ってさ、「西高行ってます」っていったら新見先生のこと昔教えてたらしくて、高校の時松華（しょうか）の吹部に入ってたって

石川 松華？え、ほんとに？

藤崎 しかもさ

下手側のドアが開いて、新見立っている。

藤崎 わ！

石川 新見先生！

藤崎 すご！ちょうどじゃん！

石川 ね！すご

藤崎 やばいよね

石川 本物？

藤崎 本物！

石川 本物！やばい！

藤崎 やばい！

新見 ちよっとー置いてかないでー

藤崎 だって先生の話、ピアノの先生がって話をちょうど今！西高、西高じゃないですかここは、で一緒でっていう、ほんとびっくりですよ

新見 何？何の話？

石川 とにかくびっくりしてるんです私たち！

新見 うん、そっかー。あのさ、蒼井先生どこにいるか知らない？

石川 え？一年と、音楽室で話してます

新見 そう、ありがと

新見、立ち去ろうとする。

藤崎 先生先生先生！

新見 なに？

藤崎 ちよっと話が！

藤崎、石川、下手側に移動する。

下手側の椅子に新見を座らせる。

藤崎 先生、松華の吹部だったってほんとうですか

新見 え、ああ、うん。それがなに？

藤崎 しかも先生がいた代で、全国大会金賞とってるって

石川 すご

新見 それがどうしたの

藤崎 あ、お願いがあって、吹部の外部コーチをやってくれませんか

石川 え？

新見 外部コーチ？どういうこと？

藤崎 先生うちの部の状況知ってますか

新見 樋口先生のこと？それは大変だとは思うけど

藤崎 それもそうなんですけど、問題は蒼井先生なんです

新見 蒼井先生ずいぶんやる気でやってるじゃん

藤崎 やる気なのが問題なんです。指揮もやって指導もやろうとしてるんですけど全然できてないんです

新見 それは仕方ないよ、未経験なんだから

藤崎 なんで経験のある新見先生が吹部じゃなくて、未経験の蒼井先生が吹部なんですか

新見 顧問って私たちの意思じゃないから、校長先生とか上の人たちが決めるわけですね

藤崎 でもおかしいですよ

新見 え、それで外部コーチ？

藤崎 そうなんです。先生に指導してもらえたらすぐ助かるんです、あと指揮も

新見 いや、指揮やるのは顧問の仕事でしょ。それって、なんていうか、蒼井先生を

降ろしたいってこと？

藤崎 はい

新見 それは石川さんも同じ意見？

石川 （藤崎に視線を送り）えっと、はい

新見 蒼井先生の指導が不満だって話は直接してるの？

藤崎 もっと厳しく指導してほしいとかは伝えてます

新見 厳しくしてほしいか、去年はどこまで行ったんだっけコンクール

藤崎 県大会までで、銀賞でした

新見 部としての目標はどうなってるの

藤崎 全国です

新見 だとしたら甘いんじゃない？全国行くような吹部だったら顧問は確かに強いけど、それ以上に生徒が自主的に練習も組んで演奏を作っていける。誰かが何とかしてくれるって時点で違うんじゃない

藤崎 もちろんやりますよ自分たちで。でも現実的に顧問は大事じゃないですか。顧問の強さで部活って変わるし、実際、全国大会だって有名な顧問だらけだし

新見 だったらそういう有名な顧問がいるところに行けばよかったんだよ

藤崎 ……

新見 とにかく外部コーチの話はさ、そもそも蒼井先生の許可もいるし、ここで話しても

藤崎 じゃあ私、直接話して許可とります。そうしたらコーチの話考えてくれませんか

新見 いや

藤崎 このままじゃ、蒼井先生じゃコンクール勝てないんですよ

下手のドアが開く。蒼井が立っている。

新見 あ

蒼井 どうしたんですか

新見 いや、先生を探してて、書類に印鑑ほしいから職員室に来てほしいって

蒼井 あ、なるほど、はい、わかりました、向かいます

蒼井、デスクの上の荷物を片付けていく。

蒼井 二人ももう帰りなよ

藤崎 先生少し話したいことがあっていいですか

蒼井 何？

藤崎 新見先生に吹奏楽部の外部コーチに入っていただきたいんです

蒼井 なに？外部コーチ？

藤崎 はい、新見先生松華の吹部にいたそうなんです、なので指導を頼みたくて。ま
ず蒼井先生承諾いただけないですか

蒼井 松華……ですか、いやでも、新見先生ソフテニの顧問だから

藤崎 ソフテニがない時だけでいいです、今ソフテニは週何日ですか

新見 いや、まあうちはゆるくしてく方針だから週三だけど

藤崎 そこ以外の曜日で

蒼井 簡単に言うけど部活以外にも仕事があるから

藤崎 週に一回でも、月に一回でも来てほしいんです

蒼井 新見先生無理ですよ

新見 いやまあちよつと

藤崎 じゃあ一回だけ演奏聴いて講評してくれませんか、それだけでも

蒼井 先生忙しいんだから

藤崎 一回だけお願いします

新見 いや、まあ一回……

蒼井 無理じゃなくていいですからね

新見 まあいいですよ、一回なら。蒼井先生が良ければ

蒼井 私は経験者の人に意見もらえるのはありがたいですけど

藤崎 ありがとうございます

新見 一回だけだからね

藤崎 はい、お願いします。一回聴いていただいたら全部伝わると思いますから

■第二場

第一場の翌日。

石川、須田、上手側で課題曲のデモ演奏のCDを探している。

須田 マジでないかな

石川 ないね

須田 「CD見つからないし、演奏も荒れてるし」って一年が愚痴ってたわ

石川 一年経験者多いもんね

須田 ちょっとマジで探そ。明日部活休みだし一通り探せると思う

石川 ごめんね私も手伝いたいんだけど

須田 いいよ、塾だよ明日

石川 そう、明日もだよ

須田、傍らに置かれた段ボールの中も探していく。

須田 でも新見先生、さすがにちゃんとしてたな

石川 全国金賞でしょ、私たちの想像つかないレベルでやってただろうからね

須田 だよな、いや緊張した

石川 うん。あのさ、新見先生今日一回って話だったけど

須田 え、違うの？

石川 沙織はそうは考えてなくて、継続的に見てもらおうとしてるみたいで

須田 ていうか蒼井先生いるのに失礼じゃない、なんか

石川 まあね。でさ、新見先生が外部コーチ受けてくれたらなんだけど、再オーディションをしたって話してて

須田 再オーディション

石川 コンクールメンバーを、新見先生も審査に入る形で選び直してほしいって

須田 どういう意味それ

石川 多分結果に納得がいてなくて、蒼井先生が素人だからちゃんと選べてないって思ってるみたいで

須田 それでやり直し？部長だからって勝手に進めすぎじゃね

石川 沙織も部のこと考えてのことだとは思うんだけど

須田 でも勝手ではあるだろ

石川 まあ、うん

須田 その再オーディションは新見先生が来たら確定？

石川 いや、どうかな、そもそもコーチの話も受けてくれるかわかんないし

須田 そっか……。何でもいいけど、コンクール吹きたいな最後だし

石川 大丈夫、敦貴君が一番練習頑張ってるのずっと私見てるから

須田 ありがとう

石川 選ばれたとき泣いてたもんね

須田 だから泣いてないって

石川 いや泣いてたよ。(泣き真似をする)

須田 いや、そんなんやってないって

石川 (さらに大げさに泣き真似する)

須田ほんとに、そこまでじゃない

石川、須田、近くにいます。

下手側のドアが開き、蒼井と新見、部屋に入ってくる。

石川、須田、急いで離れる。

石川・須田 お疲れ様です

蒼井 あ、ごめん

須田 え、何がですか？

蒼井 いや何でも

石川 須田君、CD探さないと

須田 そうだわ

石川、須田、CDを探し始める

蒼井、下手側のデスクに置かれた紙袋を手に取り、新見に渡す。

蒼井 これお礼のお菓子です

新見 ええ、そんなそんな

蒼井 ソフテニもあって忙しいのに、ありがとうございました

新見 いやそんなですよ。うちはゆるくしていつてますから全然

蒼井 でもさすがでした、一つ一つのコメントがすごくて(メモを見て)「フレーズを滑らかに」「リズムの粒をそろえて」「曲のストーリーを考えて表現する」言ってもら

ってから演奏が変わった感じしました

新見 ちょっと言っただけですぐ変わるんで面白いですよ

蒼井 ほんとに。すごかったです

新見 そうだこれ、スコア返しますね

蒼井 あ、はい

新見 沢山書き込みしてあるからびっくりしました

蒼井 いやお恥ずかしい、わかんなくなっちゃうんで書いてあるだけで

新見 すごい勉強してるんじゃないですか

蒼井 ああ、まあ、顧問向けの講習会に呼ばれるので行ったり、YOUTUBEに強豪校の演奏載ってたりするのでそういうの聴いたりとか

新見 すごいですねえ

蒼井 いやいや。だから私、松華高校の演奏も動画で見たことあったんで、先生の前で指揮するのは緊張しましたよ

新見 いやいやそんなそんな昔のことなので

蒼井 私の指揮、大丈夫でした？

新見 え？

蒼井 何か、もったこうしたらとかがあれば聞きたいです

新見 ああ、えっと、じゃあまず左手出してもらって良いですか

蒼井、左手を前に出す。

新見 で、この位置をずらさずに右手で四拍子でリズムを取ってください、振ったりしなくていいので

蒼井、右手を左手に当ててリズムを取る。

新見 一、二、三、四、です。とにかく位置をずらさずに。こう振り回して位置が定

まっけないと打点がわかりづらくて演奏者が困るので、まずは基本として決まった位置でリズムを取りましょう

蒼井 一、二、三、四

新見 そうです

新見、机の上に置かれたメトロノームを起動する。

新見 後はこれに合わせて正しい四拍子で。この基本からやると良いと思います

蒼井 一、二、三、四

新見 そうですそうです

藤崎、上手側のドアから部屋に入ってくる。

石川 おつかれさま

須田 おつかれ

藤崎 あのさ、課題曲のCDなんだけど

石川 見つかってない

藤崎 だよ

須田 段ボール全部開けるから暇なら手伝ってよ

藤崎 暇じゃないし、てかそれも全部私昨日開けて確認した

須田 あ、そうなんだ

藤崎 だから部費で買い直すように相談しようかなと思うけど、とにかくあの演奏はコンクールメンバー全員が聴いてないと困るから

石川 じゃあ、私から蒼井先生に話しとこうか

藤崎 ああ、うん

藤崎、下手の蒼井と新見の様子を見ている。

新見、メトロノームを止める。

新見　こんな感じで

蒼井　ありがとうございます！この練習もつとしてみます

新見　はい、どういたしまして

蒼井　すいません遅くまで時間使っちゃって、戻りましょうか。皆もそろそろ帰りな
よ

石川・須田　はい

藤崎　はい

皆、帰り支度をしていく。

藤崎、新見に近づいていく。

藤崎　新見先生少し良いですか

新見　え、うん

蒼井　施錠しますよー

新見　行きながらでもいい？

藤崎　できたら二人で

新見　ああ、（蒼井に）先生、鍵私預かって良いですか？施錠して持ってきますので

蒼井　あ、はい

蒼井、新見に音楽準備室の鍵を渡す。

蒼井　藤崎さん

藤崎　はい

蒼井　新見先生に無理言っちゃだめですよ

藤崎　……

蒼井、下手のドアの方へ向かう。

石川 先生、課題曲のCDの件で相談があつて……

蒼井 うん

石川、須田、蒼井、下手側の扉から出ていく。

藤崎 新見先生、実際どうでした？さっきの合奏

新見 気になったところは話したよ

藤崎 でも遠慮されていたのかなと思って

新見 いや、そういうわけでもないけど……

藤崎 ここだけの話、きつめで良いので率直な講評もらえませんか

新見 講評……いやまあ、パート練習はできてるのかもしれないけど、全体でみると演奏が固くて指揮と合ってないかな、指揮者との信頼関係ができてなかった

藤崎 さっきやってた通りで、拍とるので手一杯の感じですから

新見 そうね、あれは仕方ないんだけど。んー

藤崎 部員の方、個別ではどうですか

新見 まあまだ上手くないってない子もいたけど

藤崎 例えば

新見 例えば？

藤崎 クラリネットの須田とかはどうですか

新見 ……

藤崎 先生、私たちを助けてください

新見 ちょっと、座ろうか

新見、藤崎、着席する。

新見 吹奏楽やってた身としては、藤崎さんが今の合奏に感じる歯がゆさはわかるよ、

藤崎さんが一番上手いから一番悔しいと思う、だから何とかしてあげたいけど、でも私には私の仕事があって、蒼井先生っていう顧問もいるから、やっぱり難しいよ

藤崎 ……そうですか

新見 ごめんね

藤崎 いえ……松華の吹部ってどのくらい練習するんですか？

新見 え？そうだな、大体一年のうち350日かな

藤崎 ああ

新見 お正月とかテスト期間は休んでたけど、それ以外は一日も休みなかったよ。しかも三年の三月まで部活続けてたから、大学の下宿先見に行く時間もなくてさ、親に見に行ってもらってたぐらい

藤崎 良いなあそんなに練習できて

新見 今は、どれくらい

藤崎 週に四日です。去年はほぼ毎日やってたんですけど、樋口先生が体調崩して、部活を見れる人が減ったので、活動日減らしていく方針みたいです

新見 そっか

藤崎 全部私たちの意思じゃなく決まっていくんですよ

新見 ……

藤崎 私、松華入りたかったんです

新見 え？そうなんだ

藤崎 入りたかったんですけど、私立に行かせるお金がなかったんですうち

新見 ああ

藤崎 それで公立だったら西高の樋口先生が指導力あるって調べて来たんです

新見 そうだったんだ……あ、この前ごめん「強い顧問のいるところ行けば」なんて言
って

藤崎 いえ、大丈夫です。別に私こんな話をして、同情で指導してほしいっていわ
けじゃないんです。ただうらやましくて。全国を目指して頑張れた先生がうらやまし
いです

下手側のドアが開き、蒼井が入ってくる。

藤崎 え？

蒼井 あ、ごめんなさい、ちょっと

蒼井、スマホを取り出して録音の操作をした後、メトロノームを起動する。
しばらく、メトロノームの音が部屋に響き続ける。

蒼井、メトロノームを止め、スマホの録音を止めて、出ていくとする。

新見 何されてたんですか？

蒼井 録音したら家で練習できると思って

新見 あれだったら、アプリとかでありますよメトロノーム

蒼井 あ、そっか！そうですよね！すいませんお邪魔しました

新見 蒼井先生

蒼井 はい

新見 今日の合奏なんですけど、先生から見えてどうでしたか

蒼井 えっと、良くなってきてるので頑張っていこうって感じですよ

新見 そうですよ。あの、少して良ければ私外部コーチやりましょうか

藤崎 え？

蒼井 えっと

新見 まとまった日数出られないかもしれないですけど、ソフテニは活動日減らす方
針ですし、樋口先生のことがあるので私が少し手伝うってなっても周りの先生も納得
するかなとか。上次第の部分ありますけど

藤崎 ほんとですか

新見 話通ればだからまだ確定できないけど

蒼井 私はありがたいですけど、大丈夫ですか

藤崎 新見先生ありがとうございます、あの、指導に入ってくださいるならもう一個お願いしたいことがあります

新見 お願い？

藤崎 再オーディションをしていただきたいんです

新見 再オーディション

藤崎 今のメンバーは蒼井先生がオーディションで選びました。これを新見先生も入った形でやり直していただきたいんです

蒼井 ……

新見 いやそれは、だって一回蒼井先生がやったわけだから

藤崎 結果に不満を持っている部員が多くいます。このままコンクールに向かったら部がまとまりません

新見 藤崎さん、思うところは色々あるんだろうけど言い方っていうか

蒼井 わかりました。やってくれませんか再オーディション、もしそれで皆が納得するのならその方が

新見 いやいや、別にだって皆って言っても、実際は一部の生徒の話ですよ

藤崎 じゃあ多数決を取らせてください

新見 え？

藤崎 新見先生が指導に入ってくれるという条件で、新見先生が選ぶ再オーディションをやるべきか、蒼井先生が選んだ今のメンバーで行くべきか。どちらがコンクールにふさわしいか決めさせてください

■ 第三場

第二場より数日後。

音楽準備室。上手側に椅子が二つ置かれており、須田と石川が譜面台の前に座っている。二人はイヤホンを分け合って、演奏の録音を聴いている。

石川 今のところピッチ低くなってるから気を付けて

須田 はい

石川 ここテンポ早くて特に難しいから指回し重点的に

須田 はい

石川 あとここ宮崎ちゃんが上手に吹いてるから、どうしてるか聞いてもいいかも

須田 ……わかった、ありがとう

石川 それぐらいかな

須田 ちよつと家帰ってやるわ

石川 うん

須田 緊張するな

石川 大丈夫、絶対通るよ

須田 ありがとう

石川 帰ろっか

須田 うん。あのさ

石川 なに

須田 ほんとに思ってる？

石川 なにが

須田 俺がオーディション通るって

石川 思ってるよ

須田 それこそ一年の宮崎とかが俺の代わりにメンバー入った方がいいって思っ
てない？

石川 どっちがとかは思っていないよ別に

須田 そっか

石川 なに、どうしたの？

須田 この前聞いちゃったから、藤崎と一緒に、俺が下手だって愚痴言っ
てんの

石川 いやそれは

須田 ほんとのこと言っているよ

石川 それは沙織に合わせただけ

須田 なに合わせるって

石川 沙織はああいう感じなんだから、部長とパートリーダーでもめたら部の
ためにならないでしょ、だから合わせて言ったの

須田 ほんと俺が下手だと思っ
てないけど部のために言ったんだ

石川 ごめん

須田 じゃあ聞きたいんだけど、再オーディションやるか決める
とき、やる方に手上げ
てたけど、それってさ、今の結果に不満があるってことでしょ。多分その結果には
俺も含まれてると思うんだよ

石川 だから違うって

須田 俺は本当のこと言っ
てほしいんだよ

石川 何本当のことって

須田 だから一年通した方がいいと思っ
てるなら

石川 は？そんなの敦貴君が通っ
てほしいに決まってるじゃん！
なんでわかんないの
そんなこと。今日だって塾休んで来
てるんだよ、頑張っ
てほしいから。なんでそんな、
もういい

須田 あ、ごめん、亜美……

石川、上手側のドアから出ていく。

藤崎、上手側のドアを開き部屋に入ってくる。

藤崎 なんか亜美走ってったけど、あれなに

須田 いや

藤崎 ……え？なに？そういうこと？噂ほんとだったんだ

須田 ……

藤崎 はあ、遊んでんじゃねえよ

須田 え？

藤崎 須田には言っていない。亜美に言ったんだよ。大事な時期に

須田 ……

藤崎、楽器ケースをつかみ出ていこうとする。

須田 なあ

藤崎 なに

須田 前のオーディション終わってからずっと、他の部員捕まえて俺の文句言ってる、そういうのやめてくれない？

藤崎 ……

須田 俺だってオーディション通ってコンクールメンバーで、立場変わんないんだよ、文句言われる筋合いはないだろ

藤崎 あのさ、実力で通ったと思ってる？あんたが通ったのって三年だからだよ、あの人わかんないから上級生の方優先して選んでるだけ。どうせあんたはコンクールで吹ければ満足なんですよ、なんでオーディション通っただけで泣いて喜べるんだよ。通ってからが本番でしょ、普通

須田 ……

藤崎、上手側のドアから出ていく。

蒼井と新見、下手側のドアを開き入ってくる。

新見 えらいね、練習してたんだ

須田 お疲れさまでした

須田、上手側のドアから出ていく。

蒼井 今日休みなのに。須田君、頑張ってるんですね

新見 そうなんです

蒼井 今の吹部は中学からの経験者が多いんですけど、須田君は高校からなんですよ。だから大変だろうとは思うんですけど

新見 その経験の差って結構でかいですもんね

蒼井 でもやめずに頑張ってるんですすごいと思います、これ、楽譜と部員の名簿です

蒼井、新見にスコアと生徒の名簿を渡す。

新見 ありがとうございます

蒼井 この名簿コピーなので、オーディションの時はこれに書き込みしてもらって大丈夫です

新見 はい。すみません、準備いただいて

蒼井 こちらこそすみません大変な仕事を

新見 いや……（名簿を見る）この子前パート練習見てたんですけど上手ですよ

蒼井 ああ、宮崎夏美さん、経験者で中学の時北中だったそうです

新見 へえ、そりゃあ上手いわけだ

蒼井 そうなんです

新見 蒼井先生、オーディションなんですけど

蒼井 はい

新見 学年に関係なく実力で選んだ場合、三年生が落ちて一年生が通ることもあると思います

蒼井 はい

新見 それは部として、顧問として大丈夫ですか？

蒼井 はい、私がオーディションした時もちゃんと実力で選びましたから

新見 そうですよ

蒼井 はい

新見 えっといや、ほんとに大丈夫ですか

蒼井 え

新見 やっぱり蒼井先生は三年生にコンクール出てほしい、って思ってるんじゃないですか。もちろんオーディションの時は厳正に審査されたと思いますが、どこか無意識に三年生を通したい気持ちにはなかったですか。もしそうなら

蒼井 もしそうならどうしますか

新見 どうにもできないんですけど、聞いておきたいと思って

蒼井 三年生に出てほしいってそんなに悪いことですかね

新見 いや、悪くないと思います

蒼井 一年生や二年生には来年があって、でも三年生は最後じゃないですか、最後にコンクールに出てほしいって思うのはむしろ普通のことですよ

新見 はい、そう思います

蒼井 ですよ

新見 そうなんですけど、えっと、私も高校の時オーディションあって、うちの部だと百人以上部員がいたんで半分は落ちるんです。三年間コンクールのメンバーにはなれずに終わる子もたくさんいました。私も一年の時はメンバーに入れなくて、コンク

ールの運営の手伝いして、観客の誘導とかばかりで、自分の部の演奏もゆっくり聴けないままでコンクールが終わっていくんです。そういう悔しい中で何で続けられたかっていったら、それは選ばれて吹いてる人が、自分よりちゃんと上手かったからです、だからそういう意味で

蒼井 あ、新見先生はいつからレギュラーだったんですか？

新見 二年からです

蒼井 じゃあ、わかんないんじゃないですか

新見 え？

蒼井 三年間一度もコンクールに出られなかった人の気持ち、わかんないんじゃないですか

新見 ……そうですね

蒼井 あ、すみません

新見 いや、そうだと思います。だから私、ちゃんとやりますよ

蒼井 ちゃんと

新見 オーディションで人を選ぶ以上ちゃんと部活に関わります。皆が目標にしてる全国大会に向けて指導協力します

蒼井 全国、ですか

新見 夕方はソフテニがある日ありますけど、朝練入れてもらったら教えられますし

蒼井 いやそこまでは、新見先生も忙しいのに

新見 でもオーディションをやる責任ってのは、そういうことじゃないですか

蒼井 そう、ですか

新見 私はそう思います

蒼井 あ、新見先生、ご結婚されてますよね

新見 え、はい

蒼井 余計な事かもしれないんですけど。旦那さんにも相談の上、家庭に無理のない
感じでやってください

新見 うち、旦那も教員ですから。その辺はわかってるんで大丈夫ですよ

蒼井 でも樋口先生のことであって

新見 樋口先生？

蒼井 ……あ、いや、すいません何でもないです。行きましょう

蒼井、新見、下手側のドアから部屋を出ていく。

■第四場

第三場より数日後。

オーディションの前日。夕方、部活の後。

上手側のドアが開き、藤崎、石川、部屋に入ってくる。藤崎は楽器ケースを持っている。
藤崎、石川、棚に備品をしまっている。藤崎、楽器ケースを一時的に棚に置く。

藤崎 新見先生今日鬼だったね、だいぶ止められたわ

石川 通して演奏させてもらえなかったもんね

藤崎 それぐらいできてないってことだからそれでいいんだよ、曲の解釈の話とかそ
ういうレベルで見てくれるし、ほんとありがたい

石川 うん

藤崎 あの調子なら明日のオーディションも大丈夫だね

石川 だと思う

藤崎 そういえば、CDどうなった？

石川 もう一回だけ探してみても無ければ買おうって

藤崎 探したって散々。もうコンクールメンバー決まるから早く欲しいのに

石川 うんそうだね、また確認しとく

上手側のドアから、須田、入ってくる。掃除道具をしまうなどする。

下手側のドアから、蒼井、新見、入ってくる。

蒼井・新見 お疲れ様

藤崎・石川・須田 お疲れ様です

藤崎 新見先生、ちょっと相談があるんですけど

新見 うん、なに

藤崎 オーデイション終わったら、コンクールに向けて、練習の時間を増やしたいんです

蒼井 あ

新見 まあ、確かに週四日だと少ないよね

藤崎 夕方はできれば毎日やりたいですし、朝練も

新見 私も毎日は見れないから蒼井先生と交替でって形になるだろうけど

藤崎 はい。それでも練習の時間は確保したくて

新見 うん、練習は全然足りてないから

藤崎 ですよね、じゃあ

蒼井 あ、すいません

新見 はい

蒼井 藤崎さん、新見先生、練習は増やさない方針で行きたいです

藤崎 え？なんでですか

蒼井 負担だからです

藤崎 負担？誰の負担ですか

蒼井 主には教員側の負担です

藤崎 でも新見先生は良いつて言ってますよ

蒼井 だとしても必ず無理することになるので、私は反対です

藤崎 ……え、いやいや、え？それってコンクール本番まで週四で行くってこと言ってますか？

蒼井 はい

藤崎 そんなの勝てるわけじゃないですか

蒼井 いや、やってみないとわからないじゃないですか

藤崎 わかりますよ、先生が何もわかってないだけじゃないですか

須田 おいちよつと落ち着けよ

藤崎 いや普通に、部としての目標は全国なんだから、全国目指してる部活は毎日練習しますよ、それが前提です。樋口先生がいなくなっただけじゃ一人だったから週四になったのはわかりますけど、今は二人いるわけで、その分は少なくとも増やせますよね

蒼井 理屈としてはそうですけど、私は反対です

藤崎 え？意味が分かんないんですけど

蒼井 今は私が主顧問ですから、最終決定権は私ですよ、新見先生

新見 え、ああ、もちろん

蒼井 反対です

藤崎 いやいや、理由をちゃんと説明してもらえますか

蒼井 理由

藤崎 いりますよね、説明が

蒼井 ……新見先生が樋口先生と同じ目にあって欲しくないからです

新見 それは……

蒼井 樋口先生の体調不良ですが、部活の負担も原因の一つです

藤崎 ……

蒼井 私は樋口先生から直接話を聞いています。皆さんが部活を頑張りたい気持ちは間違っていないですけど、ある程度線を引かないと誰かが無理をすることになります。私は活動日を増やすことに反対します

藤崎 そうですか、じゃあうちは週四日で、全国は目指さずにゆるい部活でやってくってことですね

蒼井 それは違います、全国は目標として持って

藤崎 だからそんなの無理じゃないですか！ほんと何もわかってない

蒼井 いや私だって考えてるんですよ。それに教員側だけじゃなくて部員の意見も聞いてない中でこんな話しても

藤崎 部員は練習増やしたいに決まってるじゃないですか

須田 それはわかんないだろ

藤崎 はあ？

須田 部員の意見聞いてないだろ、自分のことしか見えてないじゃんか

藤崎 何？下手なのに練習もしたくないの

蒼井 ちよつと

須田 俺はいいよ、いくら練習増えても。でもそれで困る部員がいるかもしれないじゃんか、それを考えろって

藤崎 何困る部員って（石川に）え、皆練習増やしたいって思ってるよね

石川 え、あ、うん、皆はそうだと思う。私……

藤崎 ……え、なに

石川 ……ごめん。ごめんなさい

藤崎 なに、亜美どうしたの

石川 ごめん、私はちょっと、部活が増えるなら、辞めないといけなから

藤崎 え？

石川 一般受験だし私、国公立いかないとだから科目も多いし、ほんととはコンクール前に辞めて勉強しないといけなかったし

藤崎 でも、部活続けられてるじゃん

石川 だからそれは、樋口先生がいなくなって部活が少なくなったから、だから続けられるってなったの。毎日練習ならそれも無理。ごめんなさい、でも別に私に気使わなくていいから、練習増やした方がいいのはそうだと思うから

藤崎 いや亜美がいなくなるのは無理じゃん、コンバス抜けたら誰がやるの

石川 一年がやるしかないよ

藤崎 そんなの余計勝てないよ、なんでそんな大事なこと相談してくれないの

石川 こんなことなると思っていないじゃん、急に新見先生が入って来て、また部活がガチに戻って、活動日も増やすってそれも全部急に出てきた話じゃん、私だって怖かったんだよ、部活辞めなきゃいけないんじゃないかって

藤崎 いや、だから……

藤崎、言葉に詰まる。

蒼井 ……ちょっと一回、皆落ち着いて、座って話そう。藤崎さんも、ね

藤崎、ふいに、下手ドアから出ていく。

蒼井 追いかけます

新見 あ、はい、私も

蒼井、新見、下手ドアから出ていく。

石川と須田が残っている。

須田 大丈夫？

石川 ……沙織一人にしちゃった、あんなに頑張ってるのに

須田 ああ

石川 私が悪いのに、沙織は部活のこと考えてるだけなのに

須田 亜美は悪くないよ、受験はしょうがないし

石川 でも全国目指すなら私は邪魔だよ、こうなる前にもっと早く辞めとけばよかった

須田 違うよそれは

石川 違うわ

須田 違うって、藤崎だって邪魔だなんて思わない、亜美と吹きたいって思ってるよ、だからあいつも苦しそうだったんだよさっき、多分だけど

石川 沙織はちゃんと勝つことを考えてる、だからそんなじゃない

須田 じゃあ良いよ藤崎は、他の部員は、でも俺は受験のことがあっても邪魔だなんて思わないし亜美と吹きたいって思ってる。だって樋口のキツい練習一緒にやってきた仲間じゃん、今更邪魔とか変だよ、それは、おかしいって

石川 ……

須田 なんとかするから、大丈夫だから

石川 ……ありがとう

須田 うん

石川 ごめん、ちょっと冷静じゃなかった

須田 いや、大丈夫、あ、あと俺もごめん。この前一緒に練習してくれた時、ひどいこと言っちゃって

石川 いいよもうそのことは

須田 もう他の上手い部員のこととか気にせずに、自分の演奏に集中するよ、オーディションも頑張ってみる

石川 うん、あ、これ

石川、カバンからCDケースを取り出し、須田に渡す。

石川 これクラだけの演奏なんだけど、友達に録ってもらって、全体の演奏だと聞き取りづらい部分あるなと思って、直前になっちゃってごめんだけど良かったら聴いてみて

須田 え、ありがとう、めっちゃ聴く

石川 データで良かったんだけど、お母さん焼いてくれてたから

須田 それは、ありがとうございますと、よろしくお伝えください

石川 今度うち遊びに来て直接言ったら。なんか会いたがってるし

須田 それは、緊張だね

石川 全然どっちでもいいけどね

須田 是非、行かせていただきます

石川 (笑って) ……私さ、部活増えると困るくせに、部は強くなってほしいなってる

須田 うん

石川 もっと良い演奏したいって思う、だから再オーディションにも賛成したの。上手い人が選ばれて演奏すべきだと思ってるから

須田 うん

石川 だからさ、頑張ろうね

須田 うん、頑張るよ、それで一緒にコンクールで演奏しよう

石川 そうしよう、約束ね。じゃあ沙織探してくる

須田 俺も行こうか

石川 大丈夫、今は行かない方がいいと思う

須田 だよな、なんか力になれるといいんだけど。まあ、残って練習するわ

石川 うん。じゃあね

石川、上手のドアから出ていく。

須田、石川から受け取ったCDケースをしばし見つめた後、部屋に置かれたラジカセに気づき、ラジカセを机の上に持つてくる。

須田、ラジカセを開ける。皆で探していた課題曲のデモ演奏CDが入っている。

須田 あれ、これ

須田、段ボールから空のCDケースを一つ取り出し、デモ演奏CDを空のケースにしまう。

須田、CDケースを持つて上手のドアから出ていく。

数十分後。

蒼井、新見、下手側のドアから部屋に入ってくる。

蒼井、須田から受け取ったCDケースを持つている。

新見 戻ってもないか

蒼井 新見先生ありがとうございます。もう大丈夫なので職員室戻ってください

新見 もう帰っちゃったんですかね

蒼井 いや、多分学校にはいると思います

新見 そうですか？

蒼井 楽器置いていってます。藤崎さんは絶対に持つて帰って練習しますから

新見 なるほど

蒼井 すいませんでした。色々大変なことに巻き込んでしまつて

新見 いえいえ。でも実際どうでしょうね

蒼井 何ですか？

新見 藤崎さんが言つてた部活増やすつて話、確かに樋口先生のこともあるのであ

まり増やすのはあれでしょうけど、今のままだと厳しいですから

蒼井 厳しいですか

新見 石川さんみたいな生徒もいるので、任意参加って形で考えてもいいのかなと。どうしても週四じゃ勝てないですから

蒼井 勝つのもってどれくらい大事ですかね

新見 んー難しいですけど、勝たないと見えない景色があるじゃないですか。だから部活やる子には勝つこと目指してもらいたいです

蒼井 ……じゃあソフテニの方はどうなんですか

新見 え？

蒼井 うちのクラスにソフテニの子何人かいますけど、活動日減らしてく方針で困ってるって言ってましたよ、ソフテニの子たちも勝ちたいのは一緒で、じゃあなんで新見先生はあっちは減らして、こっちは増やすってなるんですか

新見 ……

蒼井 私、顧問でもなくて、口出すことじゃないし、余計なお世話だと思うんですけど

新見 ……それは………すみません

蒼井 すいません責めたいわけじゃなくて

新見 ……多分、私にとって吹奏楽が特別なだけで、基本は忙しいから部活は減らしたいんですよ、それでちよつとちぐはぐな感じに。すみません

蒼井 いや、忙しいのは、ほんとにそうですよね

新見 余裕があれば勿論色々やってあげたいですけど、でも結局時間ないし、しんどくなってるんじゃないですか？

蒼井 そうですもんしんどいのはしんどい

新見 ですよ

蒼井 ただ、なんか私、部活に救われちゃったことがあって

新見 え

蒼井 美術部で、高校の時、絵描けないんですけど、部活強制参加だったから入って、そしたら顧問が「描けなくても居るだけでいいよ」って言うてくれて。クラス馴染めてなかったんでありがたくて、そういう居場所だったんですね、部活って。だからそういう場は作ってあげたいとか、そういうモチベはあって

新見 私もそれは、部活自体は生徒のためにあっていいと思うので

蒼井 ですよね

新見 ただ

蒼井 余裕が

新見 そうです

蒼井 だから部活を減らしていく流れは絶対必要で……さっきは言えなかったんですけど、樋口先生離婚されたらしいんですよ

新見 え、あ、そうなんですか

蒼井 まだお子さん小さかったじゃないですか。なのに部活にかかりきりになっちゃって色々上手くいかなかったらしくて、精神的にも参っていて学校に戻れるかもわからないみたいです

新見 ああ

蒼井 だから、こういうことは起きちゃだめですよ

新見 そうですね

蒼井 私、樋口先生苦手なんですけど

新見 え？

蒼井 怖くないですか？

新見 怖いです、確かに

蒼井　ですよねえ！

新見　機嫌悪いなあっていうか

蒼井　そうなんですよ、部活でもそうで、厳しすぎるし去年結構部員が辞めちゃったんですね、特に初心者の子が。だから苦手というか色々あるんですけど、でも今思えばプレッシャーあったのかなって。全国行くような先生に会うと全部を捧げてやられてる方も多いですから、自分を追い込んでしまったのかなとか

新見　ああ

蒼井　だから生徒は勿論ですし、顧問がそういう状態になるのもどうかとか

新見　そうですねえ

蒼井　はい……あ、話変わるんですけど一つ確認があって。コンクールの指揮者、新見先生やられますか？

新見　……蒼井先生がやった方がいいと思います

蒼井　でも新見先生の方が上手だから

新見　でも上手い下手だけになっちゃうのも、どうなんですかね

蒼井　そうですねえ、でも部員は新見先生に指揮して欲しいと思うんですよねえ

新見　いや、んー

蒼井　んー

間。

新見　……蒼井先生、中華好きですか？

蒼井　え、はい好きです

新見　今度どうですか、ここで長く話すのもあれですし

蒼井　はいぜひ！

新見　刀削麺の美味しいお店が新しくできて

蒼井 刀削麺ってなんでしたっけ

新見 麺をこう切って飛ばすやつ

蒼井 ああーわかりました！切る練習しときます

新見 いや店がやるやつで、体験型とかじゃないんです

蒼井 ごめんなさい冗談でした

新見 あ、冗談

蒼井 すいませんわかりづらくて

新見 いやいやこちらこそすいません。じゃあまあまた予定合わせましょう

蒼井 はい

新見 そろそろ戻りましょうか

蒼井 あ、私待ってみようと思います

新見 ああ……はい。じゃあまた

蒼井 はい、また

新見、上手のドアから出ていく。

蒼井、デスクの前の椅子に座る。

蒼井、仕事をしながら藤崎を待っている。

やがて、藤崎、上手側のドアから部屋に入ってくる。

藤崎、楽器ケースをもってすぐに出ていこうとする。

蒼井、CDケースを持って。

蒼井 あ、ちょっと！

藤崎 ……

蒼井 渡したいものがあって、課題曲のCD。須田君が見つけてくれた

藤崎 ……

蒼井 須田君残って練習しようとしてそれで見つけたんだって、いや偉いよね練習熱心で

藤崎 失礼します

藤崎、上手奥のドアへ向かう。

蒼井、藤崎を追いかける。

蒼井 あ、えっと、これさ！すごい演奏で！私何回も聴いてて、上手く言えないけど、演奏に厚みがあって、オーボエのソロはかっこよくて、プロの演奏の中でも特にすごいと思って、感動した。だから藤崎さんも聴いたら感想教えて

藤崎 私だって何回も聴いてますよ

蒼井 そっか、ごめんそうだよ

藤崎 違う曲みたいじゃないですか、私たちが吹いてるのと

蒼井 ……

藤崎 基礎はしっかりしてるののにのびのびしてて、私それ聴いたとき、松華の演奏のスタイルに似てると思って

蒼井 確かに、うん、わかるよ

藤崎 その演奏を皆で目指せたら、松華、には結局私は入れなかったけど、うちでも松華みたいな演奏して全国行けるんじゃないかって

蒼井 そう、だったんだ、じゃあ皆で聴こう今度

藤崎 はい

蒼井 部活増やす話だけど、毎日は無理だと思うけど、コンクール近づいたら時間増やしたりできないかとか、もうちょっと考えてみるから

藤崎 すいませんでした

蒼井 いや

藤崎 すいませんでした私のせいなんです樋口先生

蒼井 え？

藤崎 樋口先生、部活減らしたいって話、私が部長になってすぐの頃にくれたんです。お子さんが生まれて部活をこれまでみたいには教えられないって。皆に話して意見を聞いてほしいって言われました、私、皆に話したら先生のことを考えて部活が少なくなっちゃうって思ってた。皆と話したことにして「活動日を減らすことには皆反対です」って伝えました。樋口先生はその時は納得してくれたみたいで、そのまま練習は減らさずに、しばらくして学校に来なくなりました。私のせいなんです

蒼井 ……

藤崎 ごめんなさい

蒼井 大丈夫、大丈夫だから。藤崎さんはすごく純粋に良い演奏がしたかった、本当はそれだけなんだよ、それだけなのにすごくややこしくなっちゃって、ごめんそういう環境を私も作れなくて

藤崎 ……すいませんでした。帰ります

蒼井 あ、あのさ、これ、一緒に聴かない？……それで教えてほしい、藤崎さんがどういうところを良いと思うてるとか、そういう話を聞きたい。少しでもそれに近づけるように

蒼井、CDケースを藤崎に渡す。この時、藤崎が自主的にCDケースを受け取るような動きはせず、蒼井が藤崎の手につかませるように渡す。

蒼井、机の上のラジカセの近くに移動する。

蒼井、藤崎の方に視線を送る。

やがて、藤崎、蒼井の方を見る。

長い、沈黙。

ふいに、一歩、藤崎は蒼井のいる方へ近づいた。

幕

〈参考文献〉

武田綾乃（原作）、石原立也（監督）、京都アニメーション（制作）『響け！ユーフォニアム』、2015年。

武田綾乃（原作）、石原立也（監督）、京都アニメーション（制作）『響け！ユーフォニアム2』、2016年。

朝日新聞取材班『何が教師を壊すのか 追い詰められる先生たちのリアル』朝日新聞出版、2024年。

佐藤博志・朝倉雅史・内山絵美子・阿部雅子『ホワイト部活動のすすめ―部活動改革で学校を変える』教育開発研究所、2019年。

内田良『ブラック部活動―子どもと先生の苦しみに向き合う』東洋館出版社、2017年。